

平成 27 年 12 月 16 日

秩父市議会議長 笠原 宏 平 様

議会だより編集委員会委員長 木 村 隆 彦

### 議会だより編集委員会行政視察報告書

1 期 日 平成 27 年 10 月 23 日 (金)

2 視察先 (株) 会議録センター (鴻巣市)、寄居町議会

3 参加者 委員長 木村 隆彦 副委員長 福井 貴代  
委員 江田 治雄 委員 清野 和彦  
委員 赤岩 秀文 委員 山中 進  
委員 高野 宏

#### 4 視察目的

(株) 会議録センター

##### ○ 概要

(株) 会議録センターは鴻巣市に本社を置き、昭和 41 年に創業し、現在資本金 1,000 万円、常勤社員 100 名の会社である。全国の自治体の 300 団体の議会の会議録作成や、議会だより等の編集業務や、議場の音響システムの販売等を行っている。

##### ○ 事業の概要

###### 「議会だより作成の研修」

全国各地の自治体では議会の情報公開のために議会だよりを発行している。各地の議会だよりも進化し、多くの住民の皆様に見ていただくために見やすく、わかりやすい紙面づくりに努めている。その議会だよりの発行のお手伝いをしているのが、(株) 会議録センターである。専門の担当者が編集委員会に同席し、アドバイスを行うそうである。本日は多くの議会だより発行に携わり、多くの知識を有している担当者にレイアウトや見出しの役割や写真・文字のバ



ランス、句読点の付け方等、作成する上での注意点等の研修を受けた。

### 寄居町議会「町議会だよりの概要、編集・発行の流れ」

#### ○ 寄居町の概要

寄居町は、埼玉県北西部、都心から70km圏に位置し、荒川の清流が秩父の山間から関東平野に流れ出す扇状地の要に発達した、山美しく水清らかな町である。地形的には山地・丘陵・台地・低地と多様な地形に恵まれており、荒川が町域の中央を屈曲しながら東流している。面積は64.17平方kmであり、自然環境が豊かで県立長瀬玉淀自然公園に指定されている。また、昭和55年に開設された関越自動車道花園インターチェンジを玄関口に、国道140号と254号、JR八高線・東武東上線・秩父鉄道線が結節する交通の要衝地となっている。平成13(2001)年ごろに総人口のピークを迎え、以降、減少傾向にあり現在の人口は約3万5千人である。

#### ○ 事業の概要

##### 「町議会だよりの概要、編集・発行の流れ」

寄居町議会だよりの編集委員会は6名の議員で構成されていて、見やすいレイアウト・わかりやすい記事、関心をもって手に取っていただける内容を心掛けて編集されている。また、



(株)会議録センターのご指導の元に編集を行っている。昨年は全国町村議会議長会広報コンクールで優良賞(第7位)を受賞された。現在はナンバー1を目指して努力されている。本日はその編集の概要および編集発行までの流れを編集委員の皆様から忌憚のないお話を伺った。

## 【議会だより作成の研修 木村 隆彦】

(株) 会議録センターでは秩父市議会定例会等の会議録をお願いしている会社です。その会社では会議録作成のほかに多くの自治体の議会だよりの編集作成を指導しています。そのため各地の議会だよりがカラフルに陳列され依頼先が全国にあるようです。今回は議会だよりを作成するに当たり紙面構成の基本としてのバランス、原稿を書くポイント、読みたくなる見出しなどについて研修をしました。内容としては、まず目を惹くのが「写真」、次に「見出し」そして「本文」ということで、特に写真は本文への引き込み役の第1位であり、そこから「ねらい」や「思い」も伝わる大変に重要であるということ。見出しも、本文へのガイド役で、読む読まないの判断材料となってしまうことから、見出しのねらいを明確にすること等たいへん勉強になりました。また、句読点の位置により内容が変わる事例を見させていただきました。

例：警察官は自転車に乗って、逃げる泥棒を追った。

警察官は、自転車に乗って逃げる泥棒を追った。

日頃の会話では気になりませんが文章を書く場合は注意が必要だと感じました。

秩父市議会だよりも以前に比べて内容は充実してきましたが、内容を充実させたため写真や見出しが有効に使えませんでした。どうしても分量が多くなってしまっています。今回の研修で参考になる所がたくさんありましたので、今後委員会で協議を行ない市民の皆様の手にとっていただけるような議会だよりを作成していきたいと思えます。

## 【会議録センター及び寄居町議会だより編集委員会視察 福井 貴代】

株式会社 会議録センターは、埼玉県鴻巣市にあります。会議録作成業務や議会だより等の編集業務・議会情報公開に関わる業務等、地方議会を通じて社会に貢献することを使命としている会社です。私たち議会だより編集委員は、市民と議会をつなぐ「ちちぶ市議会だより」の編集と発行に全力を尽くしています。市民の皆さまに、議会の様子を伝え、理解をいただけるよう工夫も重ねてきました。今回の視察は、議会だよりの更なるバージョンアップを目指し、まだ工夫できることや、文字の使い方などプロの取り組みを学ばせていただきたい。そんな思いからの視察でした。結果、教えていただいた情報はすぐに役に立つことばかり。原稿の書き方やポイント、読みたくなる見出し、読みやすい文章、表紙は正面玄関。勝負は見開きページにある。等々時間をかけてもっと学びたい。むしろ、議員全員が研修を受けるべきと思いました。プロの視点でアドバイスが入った、他市町の「議会だより」の見本を手にとると、その効果は歴然です。当然費用も掛かりますが、市民にとって見やすい・読みやすい・解かりやすい「議会だより」となっています。昨年5月、第29回町村議会広報コンクールで優良賞受賞の寄居町議会だよりも、その意味で大変参考になりました。



## 【視察を終えて 江田 治雄】

鴻巣市の(株)会議録センターに伺いました。全国の議会で「開かれた議会を目指し」様々な改革が推進されています。例えば議会基本条例の制定等の策定です。その一環で「議会報告会」を実施して住民の皆さんに議会の実態をお知らせしています。さらに議会だよりの発行に於いても、議会活動を解りやすく伝えるために、鋭意努力しています。

研修を終え感じたことは、まず市民の立場(読む人)になり紙面を作る事が最重要であることを改めて認識しました。いくら内容の濃いものを作成しても、手に取って見開いた時に読んで理解をしてもらえるか。比較的活字の多いものは、誰もが苦手意識があり、読まずに葬られる運命にあるようです。

大きなポイントとして、写真やイラストを駆使し「目を引き付ける」読者をまず引き付け、要点を伝える。我が議会だよりの、内容は充実した物が出来ていると思うが、活字が多く難しく感じる市民も多いと思います。今後は、研修内容を活かし一人でも多くの市民が読んでいただけるよう研究して行きたいと感じました。



## 【市民の皆さんのためになる議会だよりと 清野 和彦】

今回の視察は「市民の皆さんのためになる議会だよりとはどういうものだろうか」と改めて考える機会となった。

会議録センターが発行に大きく関わっている議会だよりは、しっかりと余白をとり読みやすさを重視している。手に取ってもらうための様々な工夫がある。全国の事例では、一見して議会だよりとわからないフリーペーパーのような議会だよりのもあった。

秩父市議会の議会だよりは、可能な限り議案への質疑と答弁や賛成・反対討論を掲載し、どのように議案が審議されたかを伝える努力をしていることである。内容が詳しい反面、多く議案の審議に関する情報を載せようとするため写真や余白が少なくなり、議会に関心の無い方が手にとってページを読み進めていただくことはかなり難しいと感じる。

寄居町議会の議会だよりの作成においては、編集委員がたくさんある議案の中でより直接的に町民の皆さんにかかわる内容、お伝えしたい内容を重視して誌面をつくっているとのことだった。確かになるべく多くの情報は伝えたいが、手に取ってもらえなければはじまらない、というのも事実だと感じる。また寄居町議会の議会だよりに、町民の方にきいたお話を掲載するページもあり、議会だよりが議会をより身近にするツールとして役割を果たすことができる新たな可能性を感じられた。限られた誌面であるという限界がゆえに、QRコードを活用して内容を補完していく、ということも今後検討しているとのことだった。

今回の視察を活かしより親しみやすい議会だよりのづくりを目指していきたい。

## 【より良い議会だよりを目指して 赤岩 秀文】

議会だより編集委員会に所属してから早1年半が過ぎました。毎議会ごとに発行されている議会だよりは、定例会閉会后に委員会を数度にわたって開催し、メンバーである委員（議員）と事務局員で原稿起こしから校正まで行い、市民の皆さんに興味を持って読んでいただけるよう創意工夫をしながら編集を行って参りました。

今回（株）会議録センターと、寄居町においての議会だよりへの取り組みについて視察を行いました。所感を端的に言うならば当市の議会だよりは、まだまだ進化が必要であるという事です。当市の議会だよりの問題点として次のようなものがあります。

- ① 議会の内容を詳しく伝えたいがために活字の量が多くなりすぎている。
- ② 興味を持って読み進めてもらうための視覚的工夫が乏しい。
- ③ 文章の構成バランスが悪い（質問と答えの文章バランス）など。

これらの問題点を解消するには次のようなことが考えられます。

- ① 市民生活に直結する内容のみ取捨選択し掲載する。
- ② ページごとの見出しの工夫（字体に変化を加える）と効果的な画像を使用する。
- ③ 原稿を書く際に文章のニュアンスが変わらない程度の要約を強化する。

以上の点を踏まえ、議会の情報発信のツールである議会だよりの編集を今後とも行えるよう、編集委員を続けさせていただきたいと改めて思いました。

## 【会議録センター及び寄居町議会 山中 進】

会議録センターにおいては、紙面の作成上における編集サポートなど、プロジェクターを使い説明を受けた。

見る側からの視点をとらえ方、読みやすい紙面づくりが望まれるなど構成やフォント、どこにポイントを置くかを指摘しながら、しっかりと据えて紙面づくりをすることが大事であるとレクチャーを受けたことは、今後の議会だよりを作成していくうえでの重要性を再認識した視察であった。

寄居町議会の議会だよりは、さすがに評価されると感じられる内容であった。まず、住民に読まれる目線で紙面づくりを常に心がけていること。一般質問など顔写真と文章の構成が簡潔で住民から見ても発言者の意図やポイントが読み取れる紙面づくりであり、町から提案された議案などの配置、質疑のやり取りが非常にわかりやすく作られ参考になった。



## 【議会だより編集委員会行政視察を終えて 高野 宏】

今回の議会だより編集委員会行政視察においては、(株)会議録センターと寄居町を訪問し担当職員よりの詳細な説明を受けました。

会議録センターでは、会社の概要の説明を受け、その後実際に多くの議会だよりの編集サポートを行っているセンターのスタッフより、2時間にわたり研修を受けました。

議会だよりの紙面構成の基本から、レイアウトバランス、更正のしかた、効果的な写真の使い方、見出しの役割と付け方などを詳しく説明して頂きました。

また、プロの目から見た議会だよりのあり方、議会の様子を読者の市民にわかりやすく伝達できるか、親しみを持って読んで頂けるか等、広報誌の作り方全般について勉強しました。会議録センターでは、全国の多くの地方議会の広報誌を作成しており、各議会で個性豊かな広報誌が作られ、よく研究されていると思いますが、費用が掛かることが問題です。

寄居町では、町議会の議会だより編集委員会の皆様より、広報誌「お元気ですか寄居議会です」の概要について説明を頂きその後、意見交換を行いました。

寄居町議会だよりは、平成20年度より全国町村議会広報誌コンクールに出展し、平成26年には7位入選されました。また、内容については、議員個人の議案に対する賛否結果の公表、統一テーマを定めた表紙、読まれやすい記事、親しまれる工夫等を考えて作成しているとのことです。

午前午後との視察研修で忙しい1日でしたが、多くの勉強をさせて頂きました。